



障がいの有無関係なく
自分たちが居る場所



NPO 法人北本福祉の会
かがやきの郷
かがやきサロン
開所日 火・木曜日(祝日休み)
10:00 ~ 15:00
住所 荒井 3-79
電話 080-2261-5306

03 場のかたち かがやきサロン

古民家を改装した「かがやきサロン」は、もとは精神障がいのある人たちの作業所として利用していた。「もっと広い場所へ引越すことになるね」と言われたんです」と甲斐田よし子さんは話す。そこで、2階を障がいのある人の一人暮らし体験の場に、1階を地域へ開放して障がいの理解を深めてもらう場にしたという。「障がいのある人も声をかけてもらえて嬉しいみたいです。地域の方も障がいに對して思うことがあったかもしれないけど、話してみても『全然普通だね』って。現場を回してくれるのは長年のボランティアの人たち。自分が居る場所だと思ってくれたいという。「皆さん話し相手になったり相談聞いたりするのが好きで、『奉仕してる』感じは全然ないんです」

「かがやきサロン」には決まったプログラムがなく、来た人が好きなことをして過ごせる。「誰もが気軽に立ち寄れる。っていうのは大事にして。そこに障がいがあるとかないとかは、もうあんまり関係ないですよ」

場のかたち 02 北本団地『中庭』

北本団地「中庭」
住所 栄 7-1-26-102
メール
kitamotokurashi@gmail.com
Instagram アカウント
@ nakaniwa_danchi

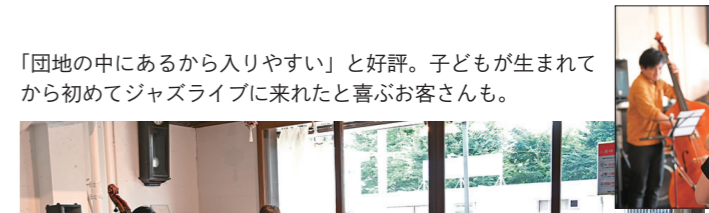
商店街の空き店舗を改装し、令和3年5月にオープンした『中庭』。「ここでやりたい」という思いを持つ人を幅広く受け入れ、お年寄りの見守りの場や子どもの居場所、お母さんたちが裁縫を楽しむ『ちくちく会』や手話でおしゃべりを楽しむ『手話ベリカフェ』などに使われる。年齢や属性に寄らず、さまざまな人が出会い、繋がる場になっている。



高齢者を見守る
福祉と暮らしラボ

福祉職のメンバーが、コーヒーや軽食の提供・野菜や生活雑貨の販売などを通して、高齢者の見守りを行う。出店者のキャラクターにファンがついて常連になる人もいます。

☛コーヒーを淹れる社会福祉協議会の塚家さん



「団地の中にあるから入りやすい」と好評。子どもが生まれてから初めてジャズライブに来れたと喜ぶお客さんも。

県外からもファンが訪れるジャズライブ

04 場のかたち B.J.バスケット

これまで周りに助けられることが多かったという鈴木節子さん。今度は人のために何かをしたいと皆を誘って始めたのが地域の居場所「B.J.バスケット」だ。お花が好きな野菜由美子さんは寄せ植えを飾り、来た人にマッサージで癒しを提供。太田久美子さんは旦那さんが作った野菜を販売し、そらばんが得意な



誰が来てもいい
緩やかなつながりの場所

「後日お母さんが来て、感謝の言葉を言われたんです。でも、私たちはただ一緒に遊んでただけ。皆、そういう距離感を大事にしています」

友人同士で始めた居場所だが、新しい人も受け入れていく予定だ。「やりたいことがある人に入ってきてほしい。ここから別の場所へ繋ぐこともしたい」と思っています。

横塚純子さんが会計を担う。鈴木貴紀さんは飲み物を出したり包丁研ぎを引き受ける。それぞれが好きなことをやりながら、来た人が居心地よく過ごせる場を作っている。「みんな、自然と適度な距離感で接することができるのがうちの強みかな。そうするとお客さんもたくさん喋るんです。一番嬉しいのは、『すごく話聞いてもらった』と満足してもらえたときですね」

平日の昼間に小学生くらいの女の子が来ていた時期があった。何か事情があるかもしれないが、特に触れず一緒に遊んだり、指あみを教えてもらって過ごした。

B.J.バスケット
開所日 月・木曜日
10:00 ~ 14:30
住所 北本 3丁目 141-2
大島ビル
Instagram アカウント
@ b.jbasket21



お母さんにほっとしてもらいたい『くりりんCAFE』

「くりりんCAFE」は、子どもも大人も一緒に作る子ども食堂を目指している。運営するのは育児サポーター「くりりん」のメンバーたちだ。親子で一緒に遊ぶイベントを企画したり、地域で子どもの居場所づくりをしながら、お母さんたちの育児を応援する活動を行っている。「CAFE」には地域の居場所に遊びに来ていた子がお手伝いに来てくれたり、社会福祉協議会を通じてボランティアの参加を受けられるなど、地域の人たちが巻きこむ。

「CAFE」の対象は親子。団地の親子や「中庭」で知り合ったお母さんに、「来てね！」と積極的呼びかける。「自分が子育てをしていた時も、一緒に育児をした先輩や仲間が身近にいたことが心強かった。お母さんたちは、毎日仕事や家事で忙しい。ここでお昼を食べてほっとして、帰ってから子どもにも優しくする余裕ができるといいなと思っています」と、「くりりん」の小澤理絵さんは話す。



育児サポーター
『くりりん』のお二人